

木木是好日

きぎ・これ・こうじつ

都市部から地方へ移り住み、地域課題の解決やさらなる活性化のために活動する「地域おこし協力隊」。
日頃の取り組みの様子やその思いを、皆さんにお伝えします。

Vol. 12 「1年が終わって」

地域おこし協力隊12か月目。
1年が経ちました。朝晩は肌寒いほどになってきましたが、そろそろ伐り旬にもなります。やることはたくさんですが、2年目に向けて木木是好日です。

一年を振り返って

昨年の10月から、地域おこし協力隊として主に桑野山貯木場で活動してきました。

昭和40年代製の木工機械と簡易製材機でのスタートで、町民の方々の持ち込む原木の製材、板の仕上げの加工や頼まれた木工品の加工、木の駅に出荷する木を伐採したり、子供たちの木工体験やエコティカかねでの木にかかわるプログラムに参加したり、あっという間に1年が過ぎました。
協力隊の活動と生活の中で、多くの町民の方々と交流できたことも感謝しています。

町の魅力

他の地域では20代、30代の地域おこし協力隊が活動しています。よく講習などで、地域活性化に必要な要素として「よそ者、若者」などという話をよく聞きます。この話は「あたりまえの中からは魅力を見出しにくい」ということで、実際、自分は神奈川県返子市で隣の鎌倉市との市境近くで育ちました。そして成人してからは東京の中野区に10年ほど住みました。たまに出身地の話になると「いい所だね」などと言われるのですが、魅力は？と聞かれるとなかなか出てきません。

川根の方がよほど住みやすい所だと、本当にそう思っています。静岡の市内に住んでいる時には関西の方に「富士山が見える所で暮らせるなんて羨ましい」と言われたことがあります。窓から富士山が見える物件は人気が高いなどという話も聞きます。

ただそういう地域では富士山が見えるのはあたりまえになっていく人がほとんどでしょう。

地元の方と話をしていると「何でもこんなところに」と言われることもありますが、ただ前任の田村くんも残っているし、緑のふるさと協力隊で川根に来た人達の定住率の高さを考えればこの町には十分な魅力があるということがわかると思います。

移住者も含め、あちこちで、地元の方が少なくなった神楽など地域に溶け込んで活躍しています。

見えにくいもの

空気がいい、水がいい、環境もいい、人がいい。もちろん不便なこともあるとは思いますが。先日、久しぶりに用事があり返子にいつてきました。車をちよっと停めておく場所もなかなかなく、元々、遊べるようなきれいな川はなかった。細い川の上にフタをして、その上にギョウギウに新しい家が建ち並んでいて驚きました。

もちろん育った町で良いところもあるし、移住してくる人もたくさんいます。でもその時、川根の戻ってきてホッとした記憶があります。

住みやすい場所とはライフスタイル、趣味、家族のこと。それぞれ

いろいろなあり、変わっていくものだと思います。
今、住んでいる方々が「ここは良いところだよ」という声が多く聞ける場所。そんな町がいい町なのではないでしょうか。

二年目にむけて

この1年は試行錯誤の連続でした。町や町民の方々の要望に応えつつ、貯木場内の木工施設を予算をなるべくかけずに使えるように整備してきました。

製材機に関しては「もう少し本格的な物にしてはどうか」との声もあります。

ただ、製材機のみではあまり生産性は変わらず他の設備も必要になってきます。それには莫大な費用と人材、広い場所も必要になり、現時点ではあまり現実的ではないと考えています。

ただ、このままでは進歩もないので、製材機は部品の購入をお願いしています。木工機は自分の大型の機械を運び、効率を上げていく予定です。
ひとりで行っていることなので、もう少し活動もシンプルにして、身の丈に合った持続可能な仕組みづくりをしていきたいと考えています。

次に繋ぐ

「よそ者、若者」の若者の方に自分は当てはまりませんが、協力隊をやっている理由は年齢的にそれなりにある経験を活かして、次に協力隊としてこの町に来るかもしれない若い世代が活動をしやすい

● 鈴木 健二 すずき・けんじ

神奈川県返子市出身。東京、静岡の石油販売会社に勤務したのち、個人で間伐と木工の仕事を開始。協力隊として、桑野山貯木場で製材・木工機械の管理と、地域の木材の利活用促進に向けた「木」や「森林」に携わる活動に取り組む。最近の関心は、古民家や農業のほか、少し昔の時代のくらしや道具など。前居住地は静岡市清水区。



●先日更新の委嘱状をいただきました。
2年目もお願いいたします

